

地図をもっと活用しよう！ その3

～小学4年生 より広い空間の中で追究する～

第3学年から第4学年にかけては、「学校のまわり」→「わたしたちのまち」→「わたしたちの県」というように、追究する地理的事象が、空間的に広がっていきます。また、第4学年では、「47都道府県の名称と位置」について学習します。これらのことと踏まえて、第4学年の学習指導では、**地図を活用しながら、自分の県や日本全体とのかかわりについて考えさせる場面を意図的に設定し、県の地理的な様子や都道府県の名称と位置についての認識を深めていくことが大切です。**

そこで今回は、「水はどこから」の学習を例に、自分のまちから県、そして隣県へと、より広い空間の中で社会的事象を追究させる地図の活用について紹介します。

《会津美里町の「馬越浄水場」から供給される水道水の追究とまとめを例に》

【学習活動】

追究1

学校の水道水がどこから来ているか調べる。



【地図の活用等】

学校の中の水道管をたどり、学校の水道水は、ポンプ室から貯水槽へと上げられ、水道管を通して蛇口から出てくることを絵図にまとめる。

水道水は浄水場という施設でつくられていることを知り、**馬越浄水場の位置を地図で調べる。**

追究2

馬越浄水場では、どこから水を取り入れて、どのようにしてきれいな水をつくり、送り出しているのかを調べる。

馬越浄水場では、近くを流れる阿賀川の水を取り入れていることを知り、**地図帳等を使い、阿賀川がどこからどこへ流れているのかを調べる。**

阿賀野川水系流域図



馬越浄水場が水を取り入れている阿賀川は、南会津町の山の方から川が始まって、会津盆地から新潟県を通って、新潟市から日本海へ流れているんだね。



出典：国土交通省ホームページ「水管理・国土保全」
(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/nihon_kawa/84034/84034-2.html)

【学習活動】

追究3

水道の水が、どこから来て、使った水はどこへ行くのかについて調べ、まとめる。

【地図の活用等】

水の流れ（循環）を白地図にまとめる。
阿賀川の源流域（南会津町荒海山）⇒馬越浄水場（会津美里町）⇒配水池⇒学校や家庭（自分の市町村）⇒下水処理場⇒阿賀川⇒阿賀野川（新潟県）⇒日本海（新潟県）

新潟県の人も阿賀川の水を使っているんだな。水はみんなでくり返し使うものだから、大切にしなくちゃいけないな。



福島県の南会津町荒海山に源を発し、山間部を流れ、会津盆地に入る阿賀川から取り入れた水は、馬越浄水場で水道水となり、配水池に送られ、そこから水道管を通って学校や家庭に供給されます。

また、学校や家庭で使った水は、下水道を通って下水処理工場等できれいにされ、川に流され、海に注ぎます。そして、その水は、やがて雨になって地上に降り注ぎ、再び水道水となり、繰り返し使われます。

白地図を使って、空間の中にこれらの事柄を位置付けることで、事象間の関係や関連を整理することができます。

地図を活用して、水道水の源である川が、どこからどこへ流れているのか等を調べさせることにより、水道水という事象をより広い空間の中でとらえさせることができます。

また、水の流れ（循環）を白地図にまとめる通じて、郷土の豊かな水環境についてとらえさせ、くらしと自然環境とのかかわり等について考えさせるきっかけをつくることができます。

